

塩竈市立病院事業会計

I 予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予算現額	うち法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	決算額	予算額に比べ決算額の増減	執行率
病院事業収益	2,939,809,000	0	2,863,937,216	△ 75,871,784	97.41
医業収益	2,427,600,000	0	2,352,211,463	△ 75,388,537	96.89
医業外収益	250,485,000	0	253,696,118	3,211,118	101.28
特別利益	261,724,000	0	258,029,635	△ 3,694,365	98.58

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
病院事業費用	2,916,266,000	2,850,566,024	0	65,699,976	97.74
医業費用	2,786,300,000	2,728,131,308	0	58,168,692	97.91
医業外費用	63,854,000	60,293,586	0	3,560,414	94.42
特別損失	66,112,000	62,141,130	0	3,970,870	93.99

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 収益的収入

予算現額2,939,809,000円に対し、決算額2,863,937,216円で、執行率97.41%となっている。

② 収益的支出

予算現額 2,916,266,000 円に対し、決算額 2,850,566,024 円で、執行率 97.74%となり、65,699,976 円の不用額が生じ決算されている。

- [主な不用額]
- ・給 与 費 23,780 千円 (退職負担金 7,176 千円、賃金 6,148 千円)
 - ・材 料 費 18,679 千円 (薬品費 16,790 千円、医療消耗備品費 1,179 千円)
 - ・経 費 13,569 千円 (委託料 5,056 千円、修繕費 2,443 千円)
 - ・過年度損益修正損 3,971 千円

2 資本的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
資本的収入	536,325,000	115,811,000	530,445,406	△ 5,879,594	98.90
他会計出資金	67,100,000	0	67,100,000	0	100.00
他会計補助金	30,000,000	0	30,000,000	0	100.00
企 業 債	312,600,000	28,900,000	309,000,000	△3,600,000	98.84
県 補 助 金	87,625,000	86,911,000	85,345,406	△2,279,594	97.39
長期借入金	39,000,000	0	39,000,000	0	100.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資本的支出	695,755,000	115,881,000	663,773,479	0	31,981,521	95.40
建設改良費	418,931,000	115,881,000	401,949,481	0	16,981,519	95.94
企業債償還金	246,824,000	0	246,823,998	0	2	99.99
長期借入金 償 還 金	30,000,000	0	15,000,000	0	15,000,000	50.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 資本的収入

予算現額 536,325,000 円に対し、決算額 530,445,406 円で、執行率 98.90%となっている。

② 資本的支出

予算現額 695,755,000 円に対し、決算額 663,773,479 円で、執行率 95.40%となり、不用額は 31,981,521 円となっている。

建設改良費は、施設購入費として 258,277,081 円で、その内訳は医療情報システム1次および2次導入(契約額 209,487,600 円)等、施設改良費として 143,672,400 円で、その内訳は電気設備更新工事(契約額 107,136,000 円)等である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 133,328,073 円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額 29,432,056 円、過年度損益勘定留保資金 634,997 円、当年度損益勘定留保資金 103,261,020 円をもって補てんしている。

II 経営成績

平成22年度から平成26年度までの経営成績は、次表のとおりである。

消費税を除いた本年度の収益的収支は、10,456,602円の純利益となって決算されている。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

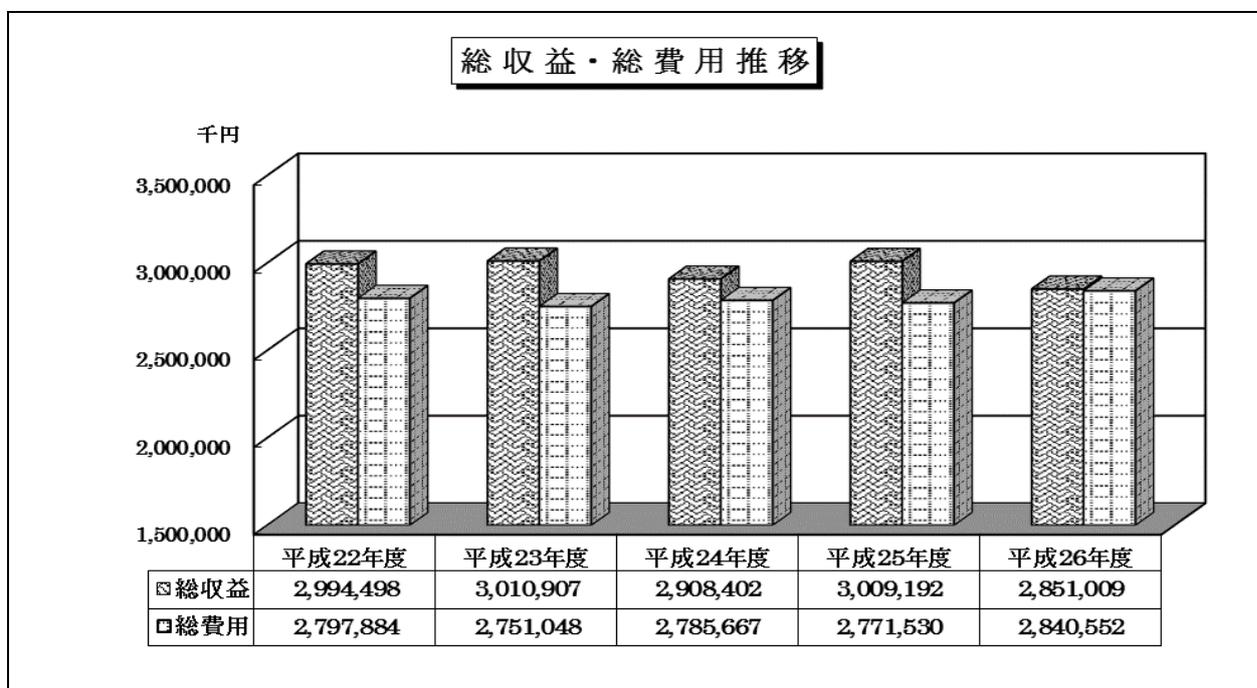
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
平成22年度	2,994,498,279	100.0	2,797,883,808	100.0	196,614,471	107.0
平成23年度	3,010,906,696	100.5	2,751,048,499	98.3	259,858,197	109.4
平成24年度	2,908,401,998	97.1	2,785,666,518	99.6	122,735,480	104.4
平成25年度	3,009,192,447	100.5	2,771,529,913	99.1	237,662,534	108.6
平成26年度	2,851,008,731	95.2	2,840,552,129	101.5	10,456,602	100.4

(注) すう勢比率は22年度を基準年度とする。

また、平成22年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成22年度を比率100としたすう勢比率で見ると、総収益で前年度と比べ5.3ポイント下回った95.2%となり、総費用は2.4ポイント上回った101.5%となっている。

また、収支比率は前年度に比べ8.2ポイント下回った100.4%となり、収支差引では前年度と比較し純利益で227,205,932円減の10,456,602円となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		平 成 26 年 度		平 成 25 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,449,392,623	50.8	1,597,824,712	53.1	△148,432,089	△9.3
	外 来 収 益	646,578,856	22.7	646,143,614	21.4	435,242	0.1
	そ の 他 医 業 収 益	244,551,175	8.6	260,984,500	8.7	△16,433,325	△6.3
	計	2,340,522,654	82.1	2,504,952,826	83.2	△164,430,172	△6.6
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	128,558,000	4.5	153,570,432	5.1	△25,012,432	△16.3
	他 会 計 補 助 金	59,731,965	2.1	42,344,978	1.4	17,386,987	41.1
	患 者 外 給 食 収 益	674,545	0.0	689,295	0.0	△14,750	△2.1
	そ の 他 医 業 外 収 益	16,419,179	0.6	18,093,369	0.6	△1,674,190	△9.3
	県 補 助 金	18,861,014	0.7	20,077,500	0.7	△1,216,486	△6.1
	長 期 前 受 金 戻 入	28,211,739	1.0	-	-	28,211,739	皆増
	計	252,456,442	8.9	234,775,574	7.8	17,680,868	7.5
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	1,305,600	0.0	14,130,775	0.5	△12,825,175	△90.8
	他 会 計 補 助 金	256,724,035	9.0	255,333,272	8.5	1,390,763	0.5
	計	258,029,635	9.0	269,464,047	9.0	△11,434,412	△4.2
合 計		2,851,008,731	100.0	3,009,192,447	100.0	△158,183,716	△5.3

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で158,183,716円(5.3%)の減収となっている。これは、医業外収益の長期前受金戻入28,211,739円(皆増)等で増収となったが、入院収益148,432,089円(9.3%)、医業外収益の他会計負担金25,012,432円(16.3%)等が減収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	平成26年度	平成25年度	対前年度比率	平成24年度	平成23年度	平成22年度
年延入院患者数	50,687	57,727	87.8	54,756	58,339	57,370
年延外来患者数	62,037	66,164	93.8	68,732	74,910	74,574
合 計	112,724	123,891	91.0	123,488	133,249	131,944

本年度の年延入院患者数は50,687人、一日平均139人で、前年度より延患者数7,040人、一日平均19人の減少。年延外来患者数は62,037人、一日平均254人で前年度より延患者数4,127人、一日平均17人の減少となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	平成26年度	平成25年度	対前年度比較増減	平成25年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	18,594	18,112	482	22,464
〃 入院収入 (円)	28,595	27,679	916	43,160
〃 外来収入 (円)	10,422	9,766	656	11,025
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	122.4	114.6	7.8	180.9
病 床 利 用 率 (%)	86.3	98.2	△11.9	74.5

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成25年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は28,595円で916円(3.3%)、外来収入でも10,422円で656円(6.7%)上回っている。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で14,565円(33.7%)、外来収入でも603円(5.5%)下回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ7.8ポイント上回っている。これは入院患者の減少によるものである。(審査資料別表2参照)

3 費用

費用比較表

(単位:円、%)

年度 区分	平成26年度		平成25年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,683,178,099	94.5	2,714,559,427	97.9	△31,381,328	△1.2
医業外費用	95,232,900	3.3	55,033,820	2.0	40,199,080	73.0
特別損失	62,141,130	2.2	1,936,666	0.1	60,204,464	3,108.7
合計	2,840,552,129	100.0	2,771,529,913	100.0	69,022,216	2.5

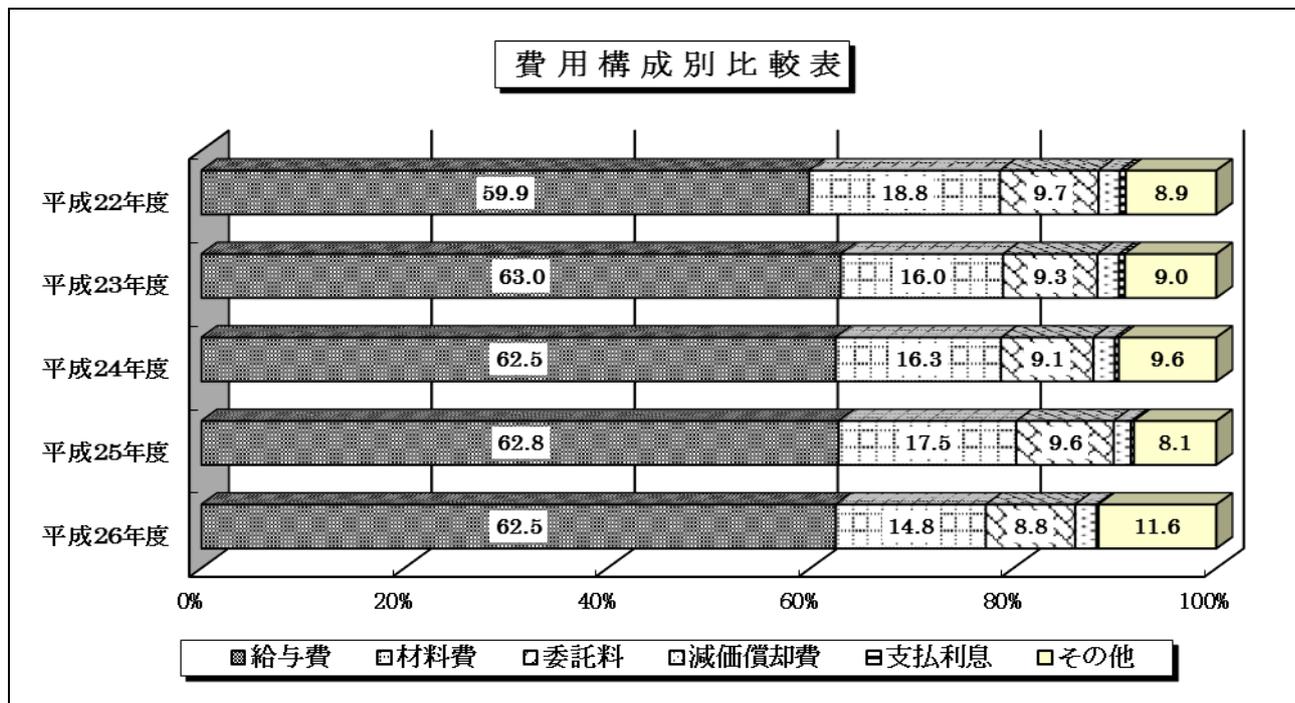
費用を前年度と比較してみると、医業費用で31,381,328円(1.2%)減少したが、特別損失で60,204,464円(3,108.7%)、医業外費用で40,199,080円(73.0%)それぞれ増加したことにより、費用合計で69,022,216円(2.5%)増加している。また、特別損失の増加については、会計制度改正によって職員手当等の費用を特別損失に計上したためである。(審査資料別表3・4参照)

これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費用構成別比較表

(単位:円、%)

年度 区分	平成26年度		平成25年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,774,486,789	62.5	1,741,429,108	62.8	33,057,681	1.9	
材料費	419,320,618	14.8	485,574,333	17.5	△66,253,715	△13.6	
委託料	250,466,579	8.8	266,819,269	9.6	△16,352,690	△6.1	
減価償却費	60,263,129	2.1	48,462,478	1.7	11,800,651	24.4	
支払利息	4,860,172	0.2	7,724,852	0.3	△2,864,680	△37.1	
その他	賃借料	51,091,070	1.8	51,304,729	1.9	△213,659	△0.4
	光熱水費	62,551,712	2.2	60,113,542	2.2	2,438,170	4.1
	修繕費・ 工事費	13,171,658	0.4	9,860,326	0.4	3,311,332	33.6
	その他	204,340,402	7.2	100,241,276	3.6	104,099,126	103.8
	計	331,154,842	11.6	221,519,873	8.1	109,634,969	49.5
合計	2,840,552,129	100.0	2,771,529,913	100.0	69,022,216	2.5	



構成別で前年度より増加した主なものは、給与費で 33,057,681 円 (1.9%)、その他 (過年度損益修正損の手当等) で 104,099,126 円 (103.8%) 等である。一方、減少した主なものは、材料費で 66,253,715 円 (13.6%)、委託料で 16,352,690 円 (6.1%) 等である。

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率を求めれば次表のとおりである。

なお、地方公営企業会計制度の改正に伴い平成 25 年度決算数値との比較は出来なくなったため、新方式で再計算した数値を平成 26 年度期首として置き換えている。

区分	平成26年度	平成26年度 (期首)	平成25年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	△9.95	△1.76	0.97	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.26	1.48	0.55	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	△7.92	△1.19	1.75	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

(注) ・総資本＝負債資本合計

- ・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本) ÷ 2
- ・総資本利益率 (経營業績、収益性を示す、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)
- ・総資本回転率 (高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)
- ・医業収益利益率 (医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、平成 26 年度期首より 8.19 ポイント下回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率で 0.22 ポイント、医業収益利益率で 6.73 ポイント下回ったことに起因している。これは当年度経常損失が 155,567,056 円 (520.9%) 増加したことによるものである。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	平成26年度	平成25年度	平成25年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率 (%)	87.23	92.28	94.51	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率 (%)	93.33	98.92	99.19	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率 (%)	100.37	108.58	99.29	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成25年度全国平均値である。

比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率（総体的経営活動の能率を示す）では、年鑑指標を1.08ポイント上回っている。これは、医業収支比率（業務活動の能率を示す）で7.28ポイント、経常収支比率（経常経営活動の能率を示す）で5.86ポイント下回っているが、特別利益で改革プランに基く繰入を行っていることによるものである。

Ⅲ 財政状態

平成26年度末の財政状態は、審査資料別表5に示すとおりである。

また、本年度の財務活動を明らかにするため、資金の移動状態を表示する資金運用表を作成すると次表のとおりである。

資 金 運 用 表

(単位:円)

使 途		源 泉	
項 目	金 額	項 目	金 額
建物(改良工事等)取得	140,830,000	建設仮勘定	7,800,000
器械備品の取得	233,810,800	企業債(固定負債)	52,598,900
車両運搬具の取得	1,059,900	他会計借入金 (固定負債)	17,500,000
リース資産の増加	26,523,476	リース債務 (固定負債)	18,614,562
		繰延収益	154,233,667
		減価償却費	60,263,129
		当年度純利益	10,456,602
		正味運転資本の減少	80,757,316
合 計	402,224,176	合 計	402,224,176

(注) 審査資料別表6参照

本年度の資金の流れは、資金運用表に示すとおり、流入した資金の合計は321,466,860円で、その主なものは繰延収益、減価償却費等であった。一方、使途は建物(改良工事等)、器械備品の取得等の合計402,224,176円であったことから不足した分80,757,316円は正味運転資本の減少となって表れている。

この正味運転資本の減少をみるために、正味運転資本増減明細表を作成すると次表に示すとおりである。

正味運転資本増減明細表

(単位:円)

増		加		減		少	
項	目	金	額	項	目	金	額
現金及び預金の増加		20,475,937		貯蔵品の減少		17,450,546	
未収金の増加		37,340,069		企業債(流動負債)の増加		9,577,102	
一時借入金の減少		120,000,000		他会計借入金(流動負債)の増加		6,500,000	
				リース債務(流動負債)の増加		4,656,071	
				未払金の増加		153,327,017	
				引当金の増加		66,910,858	
				その他流動負債の増加		151,728	
正味運転資本の減少		80,757,316					
合計		258,573,322		合計		258,573,322	

正味運転資本の減少は、表に示すとおり未払金の増加、引当金の増加等である。

なお、年度末現在の不良債務額の推移は、次のとおりである。

(単位:円)

	平成26年度	平成26年度 (期首)	平成25年度	平成24年度	平成23年度
年度末不良債務額	265,115,766	199,035,038	△688,997	86,858,299	87,280,727
対前年度増減額	66,080,728	112,176,739	△87,547,296	△422,428	△118,119,471
不良債務比率(%)	11.33	7.95	—	3.59	3.48

※不良債務比率(%) = $\frac{\text{不良債務額}}{\text{医業収益}} \times 100$

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財務比率

(単位:%)

区分	平成26年度	平成26年度 (期首)	平成24年度	平成25年度 年鑑指標	算式
流動比率	62.65	66.91	87.35	352.66	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自己資本比率	33.94	31.71	6.44	42.24	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固定資産対長期資本比率	132.56	132.77	108.50	78.77	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

(注) ・流動比率(短期支払能力を示す) ・自己資本構成比率(経営の安全性を示す)

・固定資産対長期資本比率(固定資産の調達状態を示す)

年鑑指標の比率は制度改正前の数値であることから比較できないが、平成26年度の決算を期首と比較すると、自己資本構成比率で2.23ポイント、固定資産対長期資本比率で0.21ポイント改善しているが、流動比率では4.26ポイント悪化している。

IV 病院改革プラン数値目標との比較

塩竈市立病院改革プランの全体計画期間は、平成 21 年度から平成 27 年度までの 7 年間である。

財務に係る数値を中心にした平成 23 年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分		年 度		26年度	25年度	24年度	23年度
		決算数値	数値目標				
経常収支比率	(%)	決算数値		93.3	98.9	95.1	100.1
		数値目標		102.9	101.5	100.4	100.4
		差 額		△ 9.6	△ 2.6	△ 5.3	△ 0.3
医業収支比率	(%)	決算数値		87.2	92.3	89.2	93.7
		数値目標		95.6	95.5	94.7	94.7
		差 額		△ 8.4	△ 3.2	△ 5.5	△ 1.0
職員給与費対 医療収益比率	(%)	決算数値		59.4	51.6	54.4	52.9
		数値目標		55.7	56.3	56.2	56.0
		差 額		3.7	△ 4.7	△ 1.8	△ 3.1
病床利用率	(%)	決算数値		86.3	98.2	93.2	99.0
		数値目標		97.3	97.3	97.3	97.3
		差 額		△ 11.0	0.9	△ 4.1	1.7
1日平均入院患者数	(人)	決算数値		138.9	158.2	150.0	159.4
		数値目標		156.7	156.7	156.7	156.7
		差 額		△ 17.8	1.5	△ 6.7	2.7
1日平均外来患者数	(人)	決算数値		254.3	271.2	280.5	307.0
		数値目標		307.8	307.8	307.8	307.8
		差 額		△ 53.5	△ 36.6	△ 27.3	△ 0.8
入院患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値		28,595	27,679	28,025	27,648
		数値目標		27,500	27,500	27,500	27,500
		差 額		1,095	179	525	148
外来患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値		10,422	9,766	9,044	8,315
		数値目標		9,150	9,156	9,156	9,156
		差 額		1,272	610	△ 112	△ 841
救急患者数	(件)	決算数値		1,112	1,109	1,192	1,354
		数値目標		1,000	1,000	1,000	1,000
		差 額		112	109	192	354
経常損益	(千円)	決算数値		△ 185,432	△ 29,864	△ 136,690	3,171
		数値目標		74,919	39,217	9,742	9,482
		差 額		△ 260,351	△ 69,081	△ 146,432	△ 6,311
純利益	(千円)	決算数値		10,457	237,663	122,735	259,858
		数値目標		335,433	294,656	268,230	263,141
		差 額		△ 324,976	△ 56,993	△ 145,495	△ 3,283
一般会計からの繰入金	(千円)	決算数値		637,714	734,031	740,180	787,243
		数値目標		647,934	735,934	735,934	735,934
		差 額		△ 10,220	△ 1,903	4,246	51,309
不良債務比率	(%)	決算数値		11.3	0.0	3.6	3.5
		数値目標		△ 14.3	△ 7.4	△ 1.9	3.1
		差 額		25.6	7.4	5.5	0.4

塩竈市立病院改革プランの数値目標を決算数値と比較すると、入院患者及び外来患者 1 人 1 日当り診療単価、救急患者数、一般会計からの繰入金は目標値を達成したが、その他は目標値を下回っている。

V む す び

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は7,040人(12.2%)減の50,687人、外来患者数は4,127人(6.2%)減の62,037人となった。また、病床利用率は前年度の98.2%から11.9ポイント減の86.3%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入は158,183,716円(5.3%)減の2,851,008,731円、総支出では69,022,216円(2.5%)増の2,840,552,129円で収支差引10,456,602円の純利益で決算され、前年度より純利益で227,205,932円(95.6%)減となっている。

総収入の減の内訳は、医業外収益の長期前受金戻入28,211,739円(皆増)などで増となったが、医業収益の入院収益148,432,089円(9.3%)、医業外収益の他会計負担金25,012,432円(16.3%)などで減になったことによるものである。

総支出の増の内訳は、医業費用の材料費66,253,715円(13.6%)、委託料で16,352,690円(6.1%)などで減となったが、医業費用の給与費33,057,681円(1.9%)、医業外費用の雑損失で43,198,749円(93.4%)、特別損失の60,204,464円(3,108.7%)などで増になったことによるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では274,083,088円(106.9%)増の530,445,406円、総支出では219,077,889円(49.3%)増の663,773,479円となっており、収支差引の不足額133,328,073円は当年度分損益勘定留保資金などで補てんし決算されている。総収入増の主な内訳は、企業債、県補助金、長期借入金などによるものであり、総支出増の主な内訳は、建設改良費などによるものである。

また、本年度から新会計制度での決算を行っており、資本及び負債に関連する経営財務分析比率の一部が大きく変動し、比較が困難となっている。新会計制度では、流動負債に計上すべき金額が増加したことから不良債務265,115,766円が発生している。

本年度は、入院患者数の減により医業収益が大幅に落ち込み、それに伴い医業費用では減となったものの、消費税の改定及び新会計制度に伴う費用の増加が大きく、前年度と比較して厳しい決算内容となっている。病院改革プランの数値目標と乖離している項目が多くなってきているので、その目標達成に向け努力願いたい。